

Daily Report (号外)

～ECBが7月利上げ開始の方針を表明～

結果概要

ECB(欧州中央銀行)は6月9日の理事会で、量的金融緩和策としての債券購入を7月1日で終了すると決定しました。声明文で、7月中に0.25%の利上げを実施すると明記し、9月にはより大幅な引上げが適切となる可能性があるとしてしました。利上げは2011年7月以来、11年ぶりとなります。ECBは中銀預金金利(市中銀行から資金を預かる際の金利)を▲0.5%とする「マイナス金利政策」を実施していますが、9月には同政策が終了する見込みとなりました。

ユーロ圏の5月の消費者物価指数は過去最高となる前年同月比+8.1%となりました。ウクライナ危機を背景とした供給制約により、エネルギーや食品など幅広い品目の値上がりが続いています。ECBは今回、2022年のインフレ見通しを+6.8%、2023年を+3.5%、2024年を+2.1%に上方修正しました。物価目標(2%)を上回る高インフレの長期化を予想しており、ECBは9月の理事会で0.5%幅の利上げを実施する可能性を示唆しています。

市場反応

9日の欧州市場では、ECBが9月の大幅利上げの可能性を示唆したことが警戒され、各国の長期金利が大幅に上昇し、ドイツの10年国債利回りは前日比+0.08%の1.43%となりました。イタリア、スペインなど南欧諸国では、量的緩和策打ち切りによる先行きの需給懸念も売り材料となりました。ユーロは声明文を受けて買いが先行したものの、積極的な利上げによる先行きの景気減速が懸念され、対円、対米ドルとも反落しました。

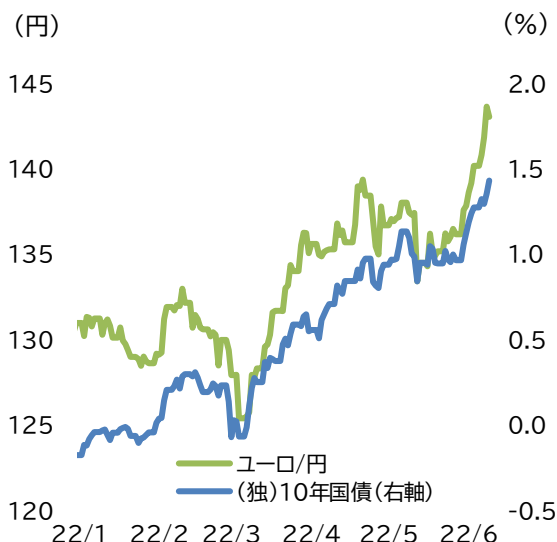
9日の米国株式市場では、欧州の金融政策の正常化による欧州景気の減速が世界景気を下押しするとの警戒感が強まったことから、NYダウは大幅に続落し、前日比638ドル11セント(1.9%)安の3万2,272ドル79セントで終わりました。

NYダウの推移



(期間)2022/1/1～2022/6/9 (出所)Bloomberg

ユーロ/円、独10年国債の推移



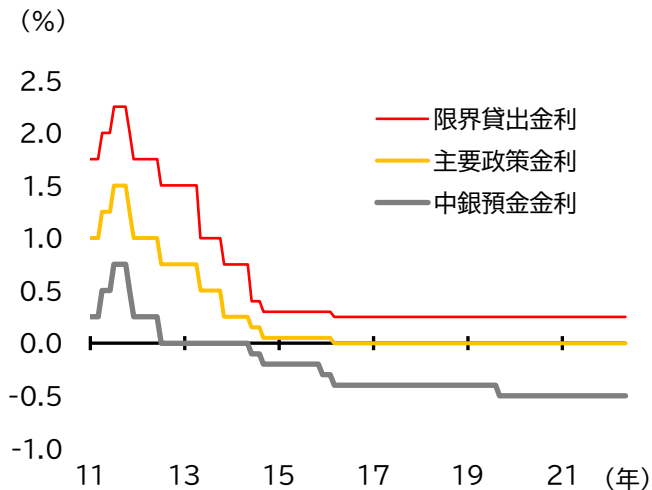
Daily Report(号外)

評価・今後の見通し

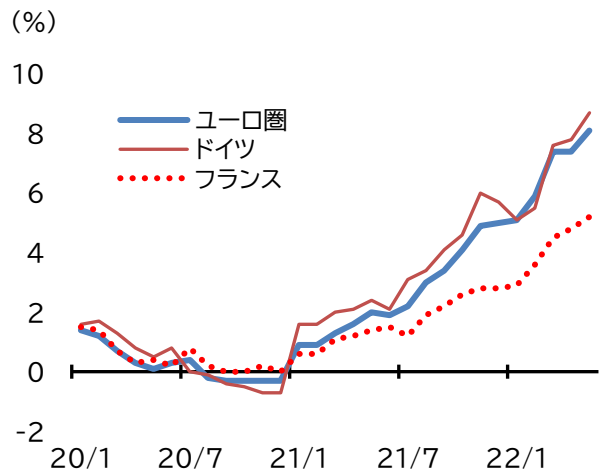
欧州も米国と同様、インフレ抑制が確認できるまでは早期大幅利上げを実施すると予想します。賃金上昇から当面は物価の高止まりが継続すると予想されるため、9月の0.5%の利上げに加え、10月、12月でも各0.5%の利上げを実施する可能性があると考えています。複数のECB高官から中立金利1%~2%を示唆する発言が多い一方、ラガルド総裁からは中立金利の水準について言及はなく、米国と同様、インフレ抑制が確認できるまで積極的な利上げを継続する姿勢を示したことや、利上げ効果がインフレに波及するまで時間を要することを考えると、政策金利の2%に向けて利上げを継続することも想定されます。但し、欧州の実態経済はウクライナ危機の影響を受けて脆弱であると考えており、大幅利上げによる実態経済への影響が意識されることから、来年以降もECBのシナリオ通りに利上げが実施できるかは懐疑的に見ています。

独長期金利の見通しは、目先はECBのインフレ抑制に向けた積極的な利上げ姿勢から、10年物は2%に向けて上昇することを予想します。ただし、年末から来年初にかけて景気減速が意識されることで金利は低下に転じると予想します。

ユーロ圏政策金利の推移



消費者物価(前年同月比)の推移



(期間)2011/1~2022/6 (出所)Bloomberg